

過去に出題された問題

乙種第1、2、3、5、6類 危険物取扱者試験

解答は最後のページに記載されています。

(注) 問題中に使用した略語は、次のとおりです。

法	令	……	消防法、危険物の規制に関する政令 又は危険物の規制に関する規則			
	法	……	消防法			
政	令	……	危険物の規制に関する政令			
規	則	……	危険物の規制に関する規則			
製	造	所	等	……	製造所、貯蔵所又は取扱所	
市	町	村	長	等	……	市町村長、都道府県知事又は総務大臣
免	状	……	危険物取扱者免状			
所	有	者	等	……	所有者、管理者又は占有者	

危険物に関する法令

[問 1] 法別表第1に掲げる第4類の危険物の品名に該当しないものは、次のうちどれか。

- 1 特殊引火物
- 2 第1石油類
- 3 アルコール類
- 4 アルキルアルミニウム
- 5 第4石油類

[問 2] 法令上、予防規程に関する説明として、最も適切なものは、次のうちどれか。

- 1 製造所等における危険物保安監督者及び危険物取扱者の責務を定めた規程をいう。
- 2 製造所等の点検について定めた規程をいう。
- 3 製造所等の火災を予防するため、危険物の保安に関し必要な事項を定めた規程をいう。
- 4 製造所等における危険物保安統括管理者の責務を定めた規程をいう。
- 5 危険物の危険性をまとめた規程をいう。

[問 3] 法令上、次の危険物を同一場所に貯蔵する場合、指定数量の倍数の合計が最も大きいものはどれか。

1	ガソリン 200 l	灯油 1,000 l	重油 2,000 l
2	灯油 500 l	重油 1,000 l	ギヤー油 6,000 l
3	ガソリン 100 l	軽油 2,000 l	重油 4,000 l
4	軽油 500 l	重油 2,000 l	メタノール 200 l
5	ガソリン 50 l	灯油 1,500 l	エタノール 400 l

[問 4] 法令上、次の製造所等のうち、学校、病院等の建築物等から一定の距離を保たなければならない旨の規定が設けられているものの数として、次のうち正しいものはどれか。

製造所 屋外タンク貯蔵所 屋内タンク貯蔵所
地下タンク貯蔵所 移動タンク貯蔵所 給油取扱所
第1種販売取扱所

- 1 2つ
- 2 3つ
- 3 4つ
- 4 5つ
- 5 6つ

[問 5] 第5種の消火設備の基準について、次の文の（ ）内に当てはまる法令に定められている数値はどれか。

「第5種の消火設備は、製造所にあつては防護対象物の各部分から一の消火設備に至る歩行距離が（ ）m以下となるように設けなければならない。

ただし、第1種から第4種までの消火設備と併置する場合にあつては、この限りでない。」

- 1 1
- 2 3
- 3 5
- 4 10
- 5 20

[問 6] 法令上、平家建以外の建築物に設ける屋内タンク貯蔵所の位置、構造及び設備の技術上の基準について、次のうち誤っているものはどれか。

- 1 貯蔵し、又は取り扱うことのできる危険物は、引火点が40度以上の第4類の危険物のみに限られている。
- 2 タンク専用室に窓を設ける場合は、特定防火設備にしなければならない。
- 3 屋内貯蔵タンクの外面には、さびどめのための塗装をしなければならない。
- 4 屋内貯蔵タンクには、容量制限が定められている。
- 5 タンク専用室は、壁、柱、床及びはりを耐火構造とし、上階のない場合にあっては屋根を不燃材料で造り、かつ、天井を設けてはならない。

[問 7] 法令上、あらかじめ市町村長等に届け出をしなければならないのはどれか。

- 1 位置、構造又は設備を変更しないで、製造所等で貯蔵し又は取り扱う危険物の品名、数量を変更する場合
- 2 危険物保安監督者を定めなければならない製造所等において、これを定める場合
- 3 危険物保安監督者を定めなければならない製造所等において、これを解任する場合
- 4 製造所等の譲渡又は引渡を受ける場合
- 5 製造所等を廃止する場合

[問 8] 法令上、製造所等の所有者等に対し、市町村長等から許可の取消しを命ぜられる事由について、次のA～Eのうち、正しいものの組合せはどれか。

- A 定期点検が義務づけられている製造所等における定期点検の未実施
- B 位置、構造及び設備の基準適合命令違反
- C 危険物の貯蔵又は取扱いの基準適合命令違反
- D 危険物保安統括管理者を定めなければならない製造所等における危険物保安統括管理者の未選任
- E 危険物保安監督者を定めなければならない製造所等における危険物保安監督者の未選任

- 1 AとB
- 2 AとE
- 3 BとC
- 4 CとD
- 5 DとE

[問 9] 法令に定める定期点検の点検記録に記載しなければならない事項として、規則に定められていないものは、次のうちどれか。

- 1 点検をした製造所等の名称
- 2 点検の方法及び結果
- 3 点検年月日
- 4 点検を行った危険物取扱者若しくは危険物施設保安員又は点検に立ち会った危険物取扱者の氏名
- 5 点検を実施した日を市町村長等へ報告した年月日

[問 10] 法令上、移動タンク貯蔵所による危険物の貯蔵、取扱い及び移送について、次のうち誤っているものはどれか。

- 1 移動タンク貯蔵所には完成検査済証を備え付けておかなければならない。
- 2 危険物取扱者が乗車しなければならないのは、危険等級Ⅰの危険物を移送する場合のみである。
- 3 危険物の移送のため乗車している危険物取扱者は免状を携帯していなければならない。
- 4 移動貯蔵タンクから引火点が40℃未満の危険物を他のタンクに注入するときは、移動タンク貯蔵所の原動機を停止させなければならない。
- 5 移送のため乗車している危険物取扱者は、移動タンク貯蔵所の走行中に消防吏員から停止を命じられ、免状の提示を求められたら、これに従わなければならない。

[問 11] 法令上、給油取扱所において自動車等に給油するときの危険物の取扱い基準について、誤っているものはどれか。

- 1 固定給油設備を用いて、直接給油しなければならない。
- 2 自動車等のエンジンはかけたままとし、非常時に直ちに発進できるようにさせておかなければならない。
- 3 自動車の一部又は全部が、給油空地からはみ出たまま給油してはならない。
- 4 懸垂式の固定給油設備から4メートル以内の部分に、他の自動車等を駐車させてはならない。
- 5 移動貯蔵タンクから専用タンクに危険物を注入しているときは、当該専用タンクと接続する固定給油設備を使用して給油してはならない。

[問 12] 法令上、危険物保安監督者に関する記述として、A～Eのうち正しいものはいくつあるか。

- A 危険物保安監督者は、すべての製造所等において定められていなければならない。
- B 危険物保安監督者は、危険物施設保安員が定められている製造所等にあっては、その指示に従って保安の監督をしなければならない。
- C 危険物保安監督者は、火災等の災害が発生した場合は作業者を指揮して応急の措置を講じるとともに、直ちに消防機関等に連絡しなければならない。
- D 危険物取扱者であれば、免状の種類に関係なく危険物保安監督者に選任される資格を有している。
- E 危険物保安監督者を定めなければならない者は、製造所等の所有者等である。

- 1 1つ
- 2 2つ
- 3 3つ
- 4 4つ
- 5 5つ

[問 13] 法令上、運搬容器の外部に表示する注意事項として、次のうち正しいものはどれか。

- 1 第2類の危険物にあっては、「衝撃注意」
- 2 第3類の危険物にあっては、「火気・衝撃注意」
- 3 第4類の危険物にあっては、「火気厳禁」
- 4 第5類の危険物にあっては、「取扱注意」
- 5 第6類の危険物にあっては、「火気注意」

基礎的な物理学及び基礎的な化学

[問 14] 次の組合せのうち、燃焼が起こらないものはどれか。

- 1 静電気火花 …………… ヘリウム …………… 酸素
- 2 ライターの炎 …………… 水素 …………… 空気
- 3 酸化熱 …………… 天ぷらの揚げかす …… 酸素
- 4 電気火花 …………… 一酸化炭素 …………… 空気
- 5 衝撃火花 …………… 二硫化炭素 …………… 酸素

[問 15] プロパン (C_3H_8) 88 g に含まれる炭素原子の物質量 [mol] として、次のうち正しいものはどれか。

ただし、Cの原子量を12、Hの原子量を1とする。

- 1 3 mol
- 2 6 mol
- 3 8 mol
- 4 12mol
- 5 88mol

[問 16] 自然発火の機構について、次の文中の（ ）内のA～Cに当てはまる語句の組合せとして、正しいものはどれか。

「自然発火が開始される機構について分類すると、セルロイドやニトロセルロースなどのように（A）により発熱するもの、活性炭などの炭素粉末類のように（B）により発熱するもの、ゴム粉や石炭などのように（C）により発熱するもの、発酵により発熱するもの、重合反応により発熱するものなどがある。」

	A	B	C
1	吸着	酸化	分解
2	分解	酸化	吸着
3	酸化	吸着	分解
4	吸着	分解	酸化
5	分解	吸着	酸化

[問 17] 次の消火剤に関する説明のうち、誤っているものはどれか。

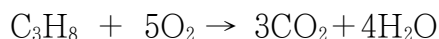
- 1 泡消火剤は、微細な気泡の集合体で燃焼面を覆う窒息効果と、水分による冷却効果によって消火する。
- 2 二酸化炭素消火剤は、主として酸素濃度を下げる窒息効果によって消火する。
- 3 水は、蒸発熱により燃焼物の温度を下げる冷却効果によって消火する。さらに気化により発生した水蒸気による窒息効果もある。
- 4 粉末消火剤は、燃焼の連鎖反応を中断させる負触媒（抑制）効果によって消火する。
- 5 ハロゲン化物消火剤は、主として燃焼物の温度を引火点以下に下げる冷却効果によって消火する。

[問 18] 静電気について、次のうち誤っているものはどれか。

- 1 静電気は、一般に物体の摩擦等によって発生する。
- 2 静電気は、ガソリン等の石油製品を取り扱う際に発生することが多い。
- 3 静電気が多量に蓄積された物質は、火花を発生するおそれがある。
- 4 静電気の蓄積を防止するためには、できるだけ湿度を下げる事が効果的である。
- 5 静電気の蓄積防止策の一つとして、接地する方法がある。

[問 19] 水素 (H_2)、炭素 (C)、プロパン (C_3H_8) の燃焼熱がそれぞれ 286 kJ/mol 、 394 kJ/mol 、 2219 kJ/mol である場合、プロパンの生成熱として正しいものは次のうちどれか。

なお、それぞれが完全燃焼する場合の化学反応式は、下記のとおりである。



- 1 107 kJ/mol
- 2 215 kJ/mol
- 3 1539 kJ/mol
- 4 2899 kJ/mol
- 5 4545 kJ/mol

[問 20] 次の物質の変化等に伴う熱量に関する用語の説明のうち、誤っているものはどれか。

- 1 反応熱とは、化学反応に伴って放出されたり、吸収されたりする熱量をいう。
- 2 中和熱とは、酸と塩基の反応で 1 molの水が生成するときに発生する熱量をいう。
- 3 溶解熱とは、1 molの物質が固体から液体になるときに吸収される熱量をいう。
- 4 生成熱とは、1 molの化合物がその成分元素の単体から生成するときの熱量をいう。
- 5 燃焼熱とは、1 molの物質が完全燃焼するときに発生する熱量をいう。

[問 21] 地中に埋設された危険物の金属製配管を電気化学的な腐食から守るために、配管に異種金属を接続する方法がある。

配管が鋼製の場合、次の A～E に掲げる金属のうち、効果のあるものの組合せとして、正しいものはどれか。

- A 銅
- B 鉛
- C マグネシウム
- D 亜鉛
- E スズ

- 1 AとB
- 2 AとE
- 3 BとC
- 4 CとD
- 5 DとE

危険物の性質並びにその火災予防及び消火の方法

第 1 類

[問 22] 危険物の類ごとの一般的性状について、次のうち正しいものはどれか。

- 1 第2類の危険物は、いずれも固体の無機物質で、比重は1より大きく、水に溶けない。
- 2 第3類の危険物は、いずれも自然発火性の物質で、酸素を含有している。
- 3 第4類の危険物は、いずれも炭素と水素からなる化合物で、引火性の液体である。
- 4 第5類の危険物は、いずれも可燃性の固体または液体で、引火性の物質もある。
- 5 第6類の危険物は、いずれも酸化性の固体で、分解して可燃物を酸化する。

[問 23] 第1類の危険物に共通する貯蔵、取扱いの注意事項として、次のうち誤っているものはどれか。

- 1 加熱、衝撃、摩擦などを避ける。
- 2 容器の破損や危険物の漏れに注意する。
- 3 容器は密栓しないで、通気のための孔のある栓をしておく。
- 4 有機物や酸などと接触しないように注意する。
- 5 熱源や火気のある場所から離して貯蔵する。

[問 24] 第1類の危険物に共通する性状について、次のうち誤っているものはどれか。

- 1 可燃性である。
- 2 常温（20℃）では固体である。
- 3 分子内に酸素を含有する。
- 4 加熱、衝撃または摩擦により酸素を放出することがある。
- 5 有機物と混合すると、爆発することがある。

[問 25] 塩素酸カリウムの性状について、次のうち誤っているものはどれか。

- 1 無色の結晶である。
- 2 熱水によく溶け、冷水にはわずかに溶ける。
- 3 加熱すると、約400℃で分解が始まる。
- 4 濃硫酸と接触すると、爆発の危険性がある。
- 5 少量の硫黄を加えると、爆発を起こしにくくなる。

[問 26] 硝酸アンモニウムの性状について、次のうち誤っているものはどれか。

- 1 無色または白色の結晶である。
- 2 刺激臭を有している。
- 3 水によく溶ける。
- 4 加熱により分解し有毒なガスを発生する。
- 5 潮解性がある。

[問 27] 次の文の () 内の A～D に当てはまるものの組合せとして、正しいものはどれか。

「過酸化ナトリウムは、(A) と激しく発熱反応し、多量の (B) を発生する。また (C) との混合物は、発火・爆発するおそれがある。従って、消火作業には (D) などを使用する。」

	A	B	C	D
1	水	水素	二酸化炭素	窒素
2	可燃物	可燃性ガス	水	二酸化炭素
3	水	酸素	可燃物	乾燥砂
4	二酸化炭素	酸素	可燃物	水
5	可燃物	水素	水	二酸化炭素

危険物の性質並びにその火災予防及び消火の方法

第 2 類

[問 22] 危険物の類ごとの性状について、次のうち正しいものはどれか。

- 1 第1類の危険物は、酸化性固体であり、分解して他の可燃物を酸化する。
- 2 第3類の危険物は、自己反応性の固体である。
- 3 第4類の危険物は、可燃性固体または液体であり、自然発火するものもある。
- 4 第5類の危険物は、可燃性固体であり、いずれも着火しやすい。
- 5 第6類の危険物は、引火性液体で引火性を有するものもある。

[問 23] 第2類の危険物の性状について、次のうち誤っているものはどれか。

- 1 一般に水と接触して酸素を発生する。
- 2 比重は1より大きいものが多い。
- 3 酸化剤と混合すると、爆発することがある。
- 4 引火の危険性を有するものがある。
- 5 燃焼するとき有害なガスを発生するものがある。

[問 24] 硫黄の性状について、次のうち誤っているものはどれか。

- 1 黄色の固体または粉末である。
- 2 腐卵臭を有している。
- 3 高温で多くの金属と反応して硫化物をつくる。
- 4 電気の不良導体である。
- 5 燃焼すると二酸化硫黄を発生する。

[問 25] 次の文の（ ）内に当てはまる物質はどれか。
「五硫化リンは、水と作用して（ ）を発生する。」

- 1 三酸化硫黄
- 2 硫化水素
- 3 二酸化硫黄
- 4 水素
- 5 リン化水素

[問 26] 次に掲げる危険物のうち、燃焼の際に人体に有害な気体を発生するものはどれか。

- 1 鉄粉
- 2 硫黄
- 3 アルミニウム粉
- 4 亜鉛粉
- 5 マグネシウム

[問 27] アルミニウム粉の性状について、次のうち誤っているものはどれか。

- 1 酸と反応して、酸素を発生する。
- 2 軽く軟らかい金属で、銀白色の光沢がある。
- 3 湿気により、自然発火することがある。
- 4 酸化剤と混合したものは、加熱、衝撃、摩擦により発火しやすい。
- 5 ハロゲンと接触すると、反応して高温となり、発火することがある。

危険物の性質並びにその火災予防及び消火の方法

第 3 類

[問 22] 危険物の類ごとの燃焼性として、次のA～Eのうち正しいもののみを掲げているものはどれか。

- A 第1類の危険物は、すべて可燃性である。
- B 第2類の危険物は、すべて可燃性である。
- C 第4類の危険物は、すべて可燃性である。
- D 第5類の危険物は、すべて不燃性である。
- E 第6類の危険物は、すべて可燃性である。

- 1 AとB
- 2 BとC
- 3 CとD
- 4 DとE
- 5 AとE

[問 23] すべての第3類の危険物火災の消火方法として、次のうち有効なものはどれか。

- 1 噴霧注水する。
- 2 二酸化炭素消火剤を放射する。
- 3 泡消火剤を放射する。
- 4 乾燥砂で覆う。
- 5 ハロゲン化物消火剤を放射する。

[問 24] 第3類の危険物の中には、保護液中に貯蔵するものがあるが、その主な理由として、次のうち正しいものはどれか。

- 1 昇華を防ぐため
- 2 水や空気との接触を防ぐため
- 3 火気を避けるため
- 4 酸素の発生を防ぐため
- 5 引火点以下に保つため

[問 25] 黄リンの性状について、次のうち誤っているものはどれか。

- 1 空気中では、酸化熱が蓄積し自然発火する。
- 2 発火点が低い。
- 3 融点が低いので燃焼し始めると液状になって広がり、燃焼が激しくなる。
- 4 毒性はほとんどない。
- 5 淡黄色を帯びたろう状の固体である。

[問 26] リン化カルシウムの性状について、次のA～Eのうち、正しいものの組合せはどれか。

- A 白色の結晶である。
- B 乾いた空気中では、安定である。
- C 非常に強く加熱すると、分解してリン化水素が生成する。
- D 酸素や硫黄と高温（300℃以上）で反応する。
- E 空気中の水分と接触すると、カルシウムが生成する。

- 1 AとC
- 2 AとD
- 3 BとD
- 4 BとE
- 5 CとE

[問 27] カリウムは通常、保護液中に貯蔵する。その理由として最も適切なものは、次のうちどれか。

- 1 カリウムは水と反応して直ちに発火し、また空気中に放置すると酸化され自然発火する危険があるため。
- 2 カリウムは空気と接触すると酸化されて金属光沢を失い、商品価値がなくなるため。
- 3 カリウムは皮膚に対して腐食性があるので、直接手を触れにくくするため。
- 4 カリウムをそのまま貯蔵すると風解し、飛散してしまうため。
- 5 カリウムは保護液と反応して、その表面に化学的に安定な皮膜をつくるため。

危険物の性質並びにその火災予防及び消火の方法

第 5 類

[問 22] 過酸化ベンゾイルの貯蔵、取扱いについて、次のうち誤っているものはどれか。

- 1 日光により分解が促進されるため、直射日光を避ける。
- 2 水と徐々に反応して酸素を発生するため、乾燥状態にする。
- 3 衝撃に対し敏感で爆発しやすいため、振動や衝撃を与えない。
- 4 火炎の接近により急激に燃えるおそれがあるため、火気厳禁とする。
- 5 加熱すると分解し爆発するおそれがあるため、加熱を避ける。

[問 23] 第5類の危険物に共通する貯蔵および取扱方法について、次のうち誤っているものはどれか。

- 1 他の薬品と接触させない。
- 2 固体のものは、すべて乾燥を保つ。
- 3 衝撃、摩擦を避ける。
- 4 火気、加熱を避ける。
- 5 通風のよい冷所に貯蔵する。

[問 24] 第5類の危険物の性状について、次のうち誤っているものはどれか。

- 1 酸素を含み自己燃焼性を有するものが多い。
- 2 加熱、衝撃、摩擦等により発火するおそれはない。
- 3 空気中に長時間放置すると分解が進み、自然発火するものがある。
- 4 燃焼速度が大きい。
- 5 重金属と作用して爆発性の金属塩を形成するものがある。

[問 25] 第5類の有機過酸化物の性状等について、次のうち誤っているものはどれか。

- 1 固体または液体である。
- 2 結合力が比較的弱い酸素・酸素結合（ $-O-O-$ ）を分子中に有する化合物である。
- 3 熱、光あるいは還元性物質により容易に分解し、遊離ラジカルを発生する。
- 4 金属塩や塩基類などが混入すると、反応性が高まるものがある。
- 5 自己反応性は強いが、衝撃や摩擦等に対しては安定である。

[問 26] ニトロセルロースの性状について、次のうち誤っているものはどれか。

- 1 日光の直射により分解し、自然発火することがある。
- 2 含有窒素量（硝化度）の多いものほど危険性は大きくなる。
- 3 エタノールや水に溶けやすい。
- 4 燃焼が極めて速い。
- 5 乾燥状態で貯蔵すると危険である。

[問 27] ジアゾジニトロフェノールの性状について、次のうち誤っているものはどれか。

- 1 黄色の粉末である。
- 2 光により変色する。
- 3 水よりも重い。
- 4 加熱により融解して安定化する。
- 5 摩擦や衝撃により爆発する。

危険物の性質並びにその火災予防及び消火の方法

第 6 類

[問 22] 危険物の類ごとの一般的性状について、次のうち正しいものはどれか。

- 1 第1類の危険物は、いずれも水によく溶ける物質で、木材、紙などに染み込み、乾燥すると爆発する危険性がある。
- 2 第2類の危険物は、いずれも固体の無機物質で、酸化剤と接触すると爆発の危険性がある。
- 3 第3類の危険物は、いずれも酸素を含有しているので、自己燃焼を起こしやすい。
- 4 第4類の危険物は、いずれも炭素と水素からなる化合物で、引火性の液体である。
- 5 第5類の危険物は、いずれも可燃性の固体または液体で、引火性の物質もある。

[問 23] 第6類の危険物のすべてに共通する貯蔵および取扱いの方法として、次のうち誤っているものはどれか。

- 1 皮膚を保護して取り扱う。
- 2 通風のよい場所で取り扱う。
- 3 酸化されやすい物品と同一場所で貯蔵しない。
- 4 冷暗所に貯蔵する。
- 5 容器で貯蔵するときは、通気孔が設けてある容器を使用する。

[問 24] 第6類の危険物の共通した性状について、次のうち正しいものはどれか。

- 1 加熱すると、酸素を発生する。
- 2 不燃性である。
- 3 比重は1より小さい。
- 4 摩擦、衝撃により爆発しやすい。
- 5 無色、無臭である。

[問 25] 第6類の危険物と性質の組合せとして、次のうち誤っているものはどれか。

- 1 五フッ化臭素 …… 水と反応してフッ化水素をつくる。
- 2 過塩素酸 …………… 金属によっては反応して過塩素酸塩をつくる。
- 3 過酸化水素 …………… 還元剤として働くことがある。
- 4 三フッ化臭素 …… 水と反応して酸素を発生する。
- 5 濃硝酸 …………… 鉄と反応して激しく水素を発生する。

[問 26] 分子式が HNO_3 で示される危険物の性状等について、次のうち誤っているものはどれか。

- 1 酸化力は、極めて強い。
- 2 有機物に接触すると、有機物を発火させるおそれがある。
- 3 湿気を含む空気中で発煙する。
- 4 皮膚に触れた場合、薬傷を起こす。
- 5 光や熱では分解されないので、透明のびんで保存する。

[問 27] 三フッ化臭素の性状について、次のうち誤っているものはどれか。

- 1 空気中で木材、紙などと接触すると発熱反応をおこす。
- 2 水と激しく反応する。
- 3 多くの金属と激しく反応する。
- 4 常温（20℃）では液体である。
- 5 それ自体は爆発性の物質である。

危険物取扱者試験 乙種第1、2、3、5、6類

解答

問題番号	解答	問題番号	解答
1	4	12	2
2	3	13	3
3	3	14	1
4	1	15	2
5	5	16	5
6	2	17	5
7	1	18	4
8	1	19	1
9	5	20	3
10	2	21	4
11	2		

第1類

問題番号	解答	問題番号	解答
22	4	25	5
23	3	26	2
24	1	27	3

第 2 類

問題番号	解答	問題番号	解答
2 2	1	2 5	2
2 3	1	2 6	2
2 4	2	2 7	1

第 3 類

問題番号	解答	問題番号	解答
2 2	2	2 5	4
2 3	4	2 6	3
2 4	2	2 7	1

第 5 類

問題番号	解答	問題番号	解答
2 2	2	2 5	5
2 3	2	2 6	3
2 4	2	2 7	4

第 6 類

問題番号	解答	問題番号	解答
2 2	5	2 5	5
2 3	5	2 6	5
2 4	2	2 7	5